

にいがた

北から南から



問題でアメリカ大統領をも動かす、政府の力のいれようは突出しており、他と比較して何とも割り切れない気持ちが残る。

拉致問題が北朝鮮の国家犯罪とすれば、当然外交で解決しなければならぬ。外交の席上でのやりとりが目に浮かぶ。北朝鮮の外交官は、日本が過去の侵略戦争で行った朝鮮の人たちへの残虐な歴史を、どう解決するかを迫るだろう。この北朝鮮側の問い掛けに、「靖国派」と言われる国会議員で内閣を構成する政府は、まともには答えられるだろうか。

今の政府は、「多数という力」で歴史的事実をも変えられると思っているようである。最大の「理解者」アメリカの議会からさえ、歴史の改ざんは許さないと言われているのである。「金」独裁体制を言う前に、私たちもつい六十数年前には、「あら人神」の前に特高警察と憲兵で見張られて、物言う自由は何もなかった時代があったことを、思い出すべきではないか。しかも、その時代の

為政者の流れをくむ政治潮流が、今大手を振って日本の進路の舵取りをしている日本を。高齢化社会だからといって、全て「忘れた」ですまされる問題ではない。いまアメリカは、北朝鮮の「核取り締まり」に精を出している。最近の拉致問題報道のなんと少ないことか……マスメディアの「健忘症」や「思上がり」が気になりながら今日もたらだらテレビを見て過ごす一日。

(とうやまたつしろう・新発田市)

商 売

八 木 三 男

父はわたくしが生まれる少しまえまで桐材の卸業をしていたが、昭和初年、一九三〇年前後の大恐慌で倒産した。小学生のころ、来



客との会話から、父の商売道德らしいことを小耳にはさんだことがある。たとえば、二股をかけて商談を進行させてはならない。同時進行はありうることだと思うが、幼いときの記憶だから、会話のいきさつも父の真意もわからない。しかし、商売にはモラルとカルール、誠実さ、偽りのなさなどが大事なんだということがわたくしにはぼんやり分かっていたように思う。とくに敗戦直後の少年時代は、靴底がボール紙やスルメであつたりして、その道德的荒廃のなかで、商売上の不誠実さや不当な利得を掠め取ることなどにたいする嫌悪感が強く身についてしまった。

そうはいつても、いまのところは、われわれ庶民の日常生活では、靴底のようなあからさまな不正に遭遇することは滅多にないが、競争社会を標榜する権力やその周辺の政治的・道義的荒廃がますます深化している状況のなかでは、いっどんな災難が直接われわれに襲いかかるかはわからない。

最近、三十数年使った二つのエアコンを取

り替えることになって、出入りの電気工事業者に頼みたいと思った。その業者とはいまの家を建てて以来三十数年のつき合い、といっても、主としてわが家のメンテナンスを担当している工務店を通じてのそれなのだが、これまで誠実に仕事をしてもらっていたのである。費用のことは念頭になかった。それはその電気工事の経営者とのつき合いではなく、営業も兼ねて、もっぱらわが家を担当しているひとりの工事担当技士にたいする信頼だった。

ある日、作業衣のその技士とスーツ姿の初対面の営業担当者がそろってやってきて相談にのってくれた。エアコンの本体は買いおきがあるから八万二千円でいいと技士がいった。カタログには二四万円とあるものだ。意外な安さに、わたくしはいっぺんにその業者に頼む気になった。明日にも見積もりをよこすといった。

見積もり書を見て思いのほか費用がかさむのにびっくりした。本体は二つで八万二千

にいがた

北から南から



円×2であったが、撤去費用がひとつ四万円
で計八万円にはおどろいた。工事費込みで三
二万円とあった。妻が電話で説明を求めたところ、スーツ氏が出てきていうには、技士があまり安くいい過ぎたので、撤去費用を少し上乗せした。運搬費用などがかさむのだという。わたくしはルール違反ではないかと思ったので、依頼するのを保留した。

そこで、テレビや冷蔵庫も買ったことのある、工事もやる電気器具の量販店に電話した。本体は八万四千元。撤去費用は五千元。ガスを抜く必要があれば一万五千元だという。妻が面白がつて、スーツ氏にまた電話して、撤去費用は量販店ではこれこれだと説明した。電気工事業者から翌日電話があつて、こんどは本体を一万円高くする代わりに撤去費用を値引きする、合計で一万円安くするといった。わたくしはこの業者はダメだと思った。後日、量販店の店員が訪ねてきて、工事の概略の説明をわたくしから聞いたうえで、だしてきた見積書によると、本体は少し小ぶり

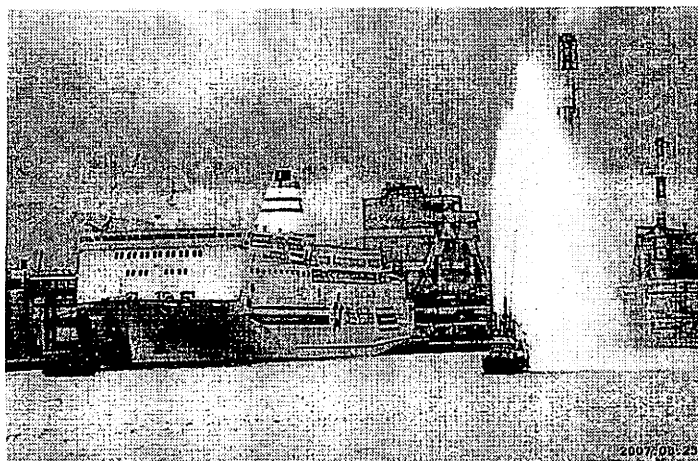
になったがひとつ五万四千元、撤去費用はリサイクル料をいれてひとつ七千元あまり、エアコン二つの設置費用は合計でさきの電気工事店の五十数パーセント、約一四万円あまり安かった。わたくしは喜んで契約した。六月中旬に工事が完了した。

書斎のエアコンは、三〇年以上まえの旧式だといっても、まだ十分に働いていたのである。しかし、昨年までわたくしが難病による不安定な体で、柱につかまりながら椅子に登ったり、棒でついたりして操作していたところ、妻が見かねて取り替えることにしたのである。リモコンになってそのいわば前記のような「冒険」から解放され、その拍子に、天下一役人を介して、低額な入札会社を排除する官製談合のことをふと思った。規模も技術内容も全く違うだろうが、高値談合、下請けなどによつて、わたくしが経験した上記のような途方もない価格差が生じ、誰かが国民の財産であるその差額を山分けしあっているのだろう。



ちょうどそのころ、五年あまり使ったパソコンの具合が悪くなった。インターネットは二度三度やらないと接続しないし、しょっちゅう不正終了になる。そのうえ、突然画面が消えて真っ黒になり、せっかく書いた文章がダメになった。そんなことが二度もあって、家庭教師に頼んで取り替えてもらうことにした。ディスプレイ（テレビ様画面）や印刷機はいまのを使うとして、インターネット販売の本体は約六万円だという。エアコン費用の差額でパソコン購入費がまるまる浮いたうえに、約八万円もお釣りがくる勘定になった。

（やぎ みつお：いがた県民教育研究所所長）



2007/03/29